

## SUN たがなと。

地域に残り  
人をつなぎ  
宝を守る  
夢の実現へ

母永『宝と夢』の里づくり  
協議会 副会長・事務局長

渡邊 秀仙<sup>さん</sup>  
Hidehisa Watanabe 永沢寺



ラジオ・ハニーFMでもっと詳しく聴けます！【8/15 15時10分～】

「『宝』は子ども、『夢』は地域の活性化。母子・永沢寺らしさと願いを込めました」と、協議会の名称の由来を教えてくださいましたのは渡邊秀仙<sup>さん</sup>。今年1月に発足した母永『宝と夢』の里づくり協議会副会長兼事務局長を務めている。

「子どもは地域の宝」とは、昔から地域で語り継がれた言葉。学校や子どもとのつながりが強いところがこの特色だと言う。学校行事は地域と合同で行うのが当たり前。いきいき百歳体操の会場に子どもたちが訪問する交流会は、住民の毎月の楽しみだ。自らも母子小学校に通い、わが子の育友会や特認校サポートクラブに20年以上携わり会長も務める経験から、多くの人たちの子どもへの想いを特に強く感じてきた。今年で創立150周年を迎える母子小学校は「皆の母校」であり、人々をつなぐ「地域の拠点」となっている。

母子・永沢寺地区の世帯数は90余り。皆が顔見知りのような関係だが「昔みたいに縁側に座って話す姿を見なくなった」と感じている。さらに追い打ちをかけるように新型コロナウイルスが流行。高齢化や人手不足もあり、休止せざるを得ない活動が増えることは寂しかった。そんな中、「地域を活性化し、ここで暮らしたいと思ってくれる人を増やそう」と、協議会設立の話が持ち上がった。当然、すぐに

全員が賛成というわけにはいかなかったが、意見はさまざまでも地域を守りたい想いはみんな同じはず。「一番大切なのは地域の人たちの気持ち。地域を守るための行動であることを伝え、少しでも納得してもらいたい」と一軒一軒根気強く説明を続け、半年が経った頃、設立準備会が発足した。

渡邊さんが活動を続ける背景に、大学時代に地元を離れた経験がある。モノが溢れ、便利な都会での生活を送る中、地元には「帰りたい」との思いがあった。「両方を知る自分だから伝えられることがあるのでは」「世代を超えて意見交換できるつなぎ役に」と今日も笑顔で地域のために力を尽くす。

「ここに住むことを選んだからには何かしないと」。地域の宝を守り、夢を実現する使命を担って。

温厚な人柄で常に地域に寄り添ってくれるため、いつも皆から頼られています。地域の顔として信頼が厚く、相手に意見や気持ち伝えるのが上手なので、協議会にも地域にも、なくてはならない存在です。



母永『宝と夢』の里づくり協議会で一緒に活動する  
榎田 作巳<sup>さん</sup>